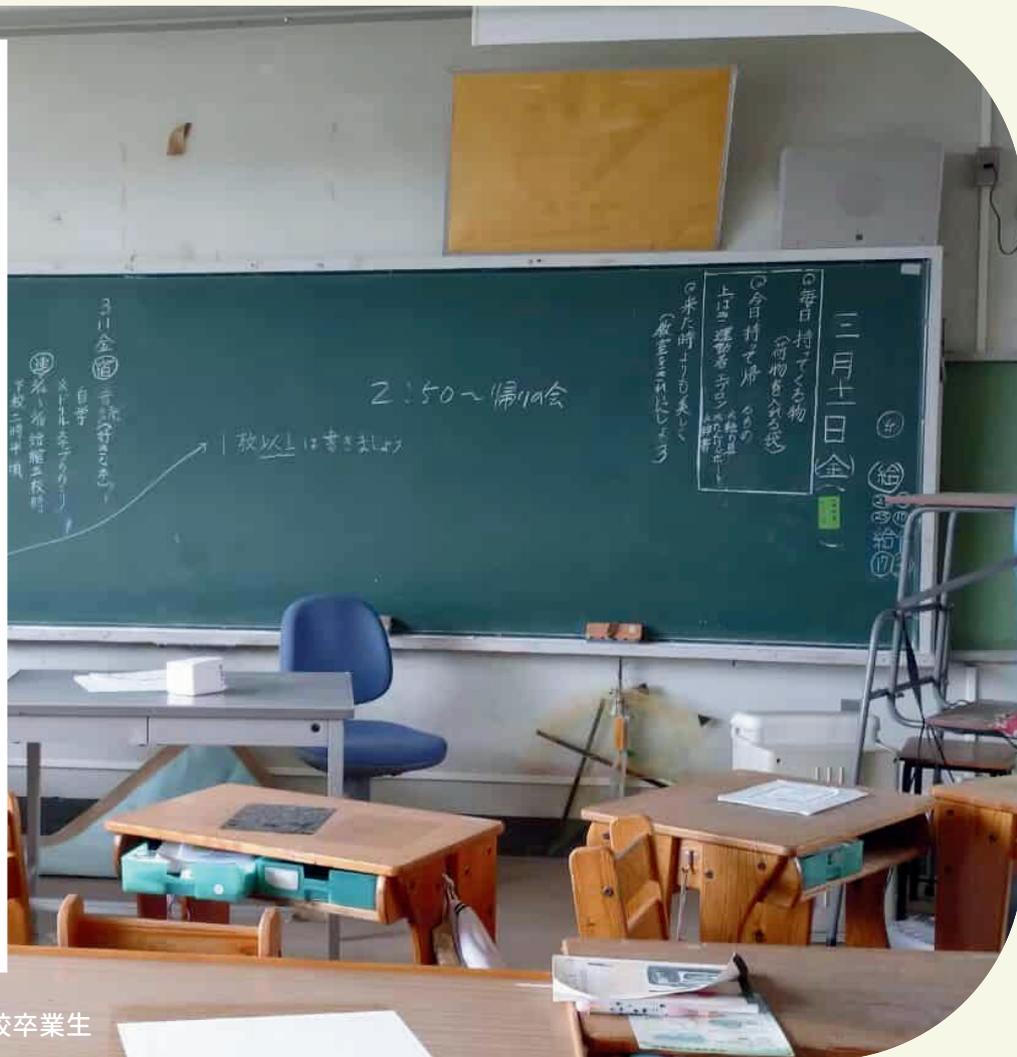


語り合う場 遺構と地域の未来を



写真提供：熊町小学校卒業生

東日本大震災被災地などの各地で、災禍を後世に伝えるための遺構整備が行われており、大熊町の中間貯蔵施設内における施設でも、検討がはじまりました。

本企画は、町による検討に先立ち、熊町小学校等の遺構に「どのような価値があるのか」「活用方法」などについて、町内外の参加者とともに多様な意見を共有しています。シンポジウム開催後には、皆さんの声を町へ提出します。ぜひ、あなたの声をお聞かせください。

10.12 日 第3回 ワークショップ そこにある価値 広島から

時間 9:20~12:20現地視察 / 13:30~16:00ワークショップ

場所 CREVAおおくま 1階 会議室 (大熊町大字下野上字大野116-5)

ゲスト 多賀俊介さん (広島・ヒロシマ・広島を歩いて考える会)

10.19 日 第4回 シンポジウム(1~3回の総括)

時間 13:30~16:30 (13:00~受付開始)

場所 Linkる大熊 多目的ホール (大熊町大川原字南平1207-1)

登壇 窪田亜矢さん(東北大学大学院工学研究科), 佐藤翔輔さん(東北大学災害国際研究所)
遠藤瞭さん(熊町小学校卒業生), 渡部正勝(おおくまふるさと塾), 木村紀夫(大熊未来塾) ほか

※要お申込み (詳細は裏面へ)

第3回 ワークショップ

そこにある価値 広島から



多賀俊介さん（広島・ヒロシマ・広島を歩いて考える会）

原爆投下前の平和公園には人々の暮らしがあったことを伝える被爆遺構展示館や、原爆の被害だけでなく加害の歴史も伝える被服支廠、また被爆した小学校の資料館等についてご紹介いただき、遺構が「そこにある」価値を考えます。戦後80年の今でも、市民が活発に遺構を活用している広島から学び、熊町小学校等の遺構活用を皆さんで考えます。

10/12
(日)

第4回

シンポジウム(1~3回の総括)



窪田亜矢さん（東北大学大学院工学研究科 教授）

1968年東京生まれ。専門は都市計画、地域デザイン。歴史的環境保全と公害問題に関心があり、震災後は大槌町赤浜地区や南相馬市小高区のまちづくりに関わる。大熊町では、文化財保存活用地域計画策定協議会と社会教育複合施設整備検討委員会の委員を拝命。過去と現在と未来を、空間によってどのように関係づけられるのかを研究中。

10/19
(日)



佐藤翔輔さん（東北大学災害国際研究所 准教授）

京都大学大学院情報学研究科博士後期課程修了、博士(情報学)。主な専門は災害情報・災害伝承。国土交通省東北地方整備局・震災伝承施設連絡会議座長などを務め、東日本大震災の被災地における遺構の保存や伝承施設の支援などに携わる。東日本大震災・原子力災害伝承館・客員研究員、福島県・次世代伝承者育成プログラム検討プロジェクトチーム・メンバー。



遠藤 瞭さん（熊町小学校卒業生）

2000年大熊町生まれ。震災当時は熊町小学校の4年生。避難先で再開した大熊町立の小中学校を卒業し、ふたば未来学園高校に進学。2022年「大熊町立図書館・民俗伝承館存続を求める発起人」のメンバー。大学院を修了した25年4月～大熊町内で働いている。



渡部 正勝

(おおくまふるさと塾 代表)



木村 紀夫

(大熊未来塾 代表理事)

／ その他 多様な登壇者 ／

- ◎復興庁（調整中）
- ◎大熊町 教育委員会
- ◎福島大学（調整中） etc...

お申込み

下記QRコードからお手続きいただくか、メールまたはお電話でお申込みください



◁10/12(日)
第3回はこちら
×切:10/11



◁10/19(日)
第4回はこちら
×切:10/18



9/19(金)～10/18(土)
パネル展示も開催！
@CREVAおおくま

共催 一般社団法人大熊未来塾、おおくまふるさと塾

協力 福島大学 地域未来デザインセンター
公益社団法人 3.11メモリアルネットワーク

後援 大熊町、大熊町教育委員会

問合せ 大熊未来塾(担当:義岡) ☎080-1472-3763

✉ okuma.future@gmail.com

※本事業は、3.11メモリアルネットワーク基金助成事業、Civic Force「NPOパートナー協働事業」として実施します。